

宇部市立図書館リニューアル基本計画

令和5年(2023年)3月
宇部市教育委員会

目次

第1章 宇部市立図書館リニューアル基本計画について	1
1 基本計画策定の目的と位置付け	1
2 基本構想の概要	3
3 策定の過程	4
第2章 リニューアルのサービス方針	11
1 「知りたい」「学びたい」を支える情報収集・発信拠点	11
2 ひとやまちとの新たな交流と創造を生み出す場	13
3 子どもから大人まで誰もが自分らしさを表現できる居場所	14
4 これからのまちづくりを共に考える「現代版・宇部方式」の実践	15
第3章 リニューアルの事業方針	16
1 主なリニューアル項目	16
2 主なリニューアルの対象エリア	19
3 事業スケジュール(案)	20
4 概算事業費(案)	20
第4章 リニューアルの管理運営方針	21
1 開館日数・開館時間	21
2 人的資源の適正配置	21
3 職員の育成方針	22
4 市民協働の取組	22
資料編	23
1 宇部市立図書館リニューアル市民委員(第1回)	23
2 宇部市立図書館リニューアル市民委員(第2回)	25
3 宇部市立図書館リニューアル市民委員(第3回)	27

第1章 宇部市立図書館リニューアル基本計画について

1 基本計画策定の目的と位置付け

現在の宇部市立図書館(以下、「市立図書館」という。)は、市制施行 60 周年記念事業の一環として、平成 3 年(1991 年)に琴芝町へ移転開館し、その後、「生涯学習の拠点施設」として、子どもから高齢者まで多くの方に利用されています。

その一方で、開館後 30 年以上が経過し、その間、施設、設備等について大きな改修等は行っていないため、耐用年数を超えた空調設備やエレベーター、利用者から改修要望が多いトイレ、汚れや破損が目立つ椅子など、改修や更新を必要とする多数の設備等が見られます。さらに、Society5.0(超スマート社会)の到来を迎えるなど、社会的背景も 30 年前と比較して大きく変化しており、図書館にとって非常に重要な役割である、よりよい情報環境の創出・提供という側面からも、質の高い図書館サービスの提供が難しくなっている状況です。

このような状況の中、市立図書館が今後も引き続き、「市民の誰からも愛され、役に立つ図書館」であるためには、設備面だけではなく機能・サービス面も含めてリニューアルに取り組む必要があります。

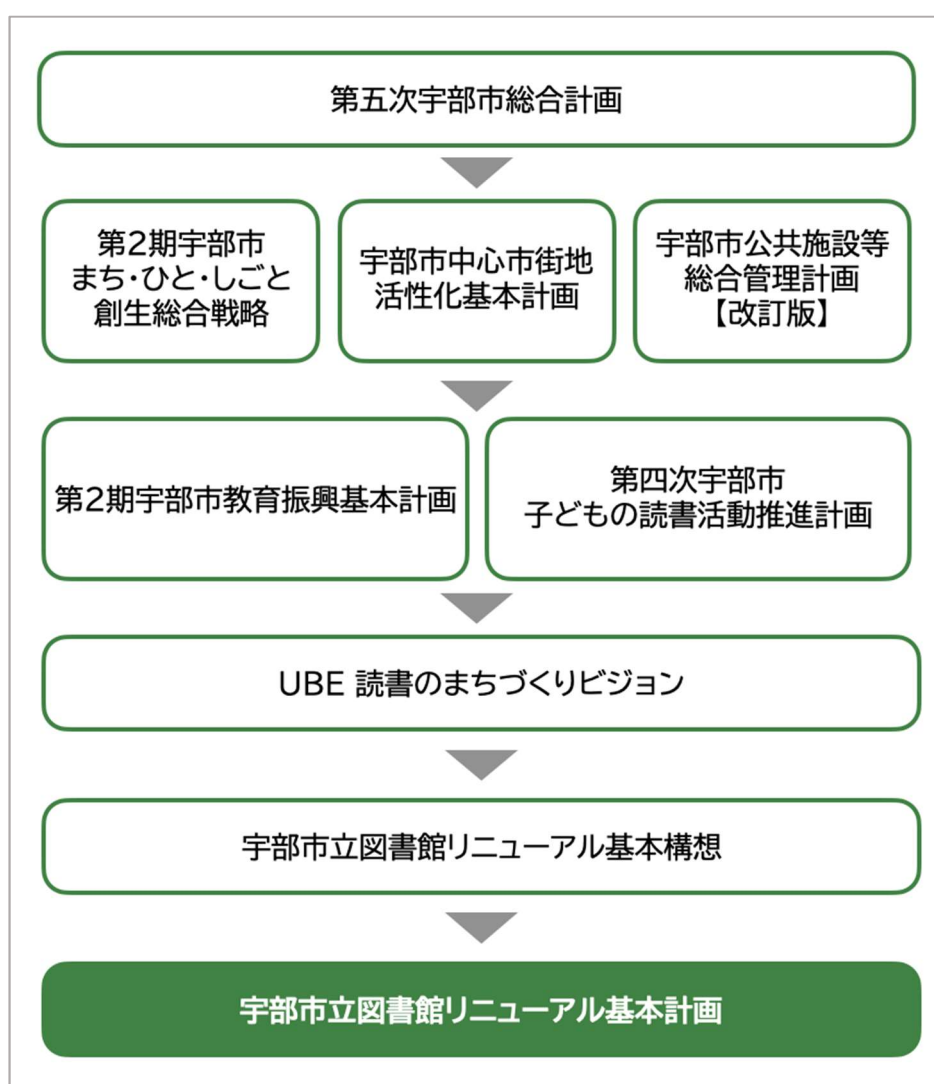
この「宇部市立図書館リニューアル基本計画」(以下、「基本計画」という。)は、令和 2 年(2020 年)度に策定した「宇部市立図書館リニューアル基本構想」(以下、「基本構想」という。)に基づき、時代や市民生活の実態に即した「読むことによって知る、学ぶ、楽しむ」といった広い意味での新しい「読書」観を実現するなど、読書のまちづくりを推進する上で今後どのような図書館を目指すべきかを整理し、具体的なリニューアル方針を決定することを目的として策定します。

なお、本市では、「宇部市公共施設等総合管理計画【改訂版】」において、市立図書館のような鉄筋コンクリート造のハコモノ施設の長寿命化については、築年数が 45 年以下の建物の場合、築 45 年経過時に施設の劣化状況等を踏まえ総合的に判断することとなっています。

このため、本基本計画における整備については、老朽化し改修や更新等が必要な設備や、図書館サービスの向上につながる機能アップを柱とし、長寿命化に向けた大規模な改修等については、築 45 年経過時に検討することとします。

また、基本計画は「第五次宇部市総合計画」を始めとする本市の上位計画や「宇部市中心市街地活性化基本計画」等のまちづくり関連計画と、多様な市民との対話を通して策定された「UBE 読書のまちづくりビジョン」ならびに「基本構想」を踏まえて策定します。

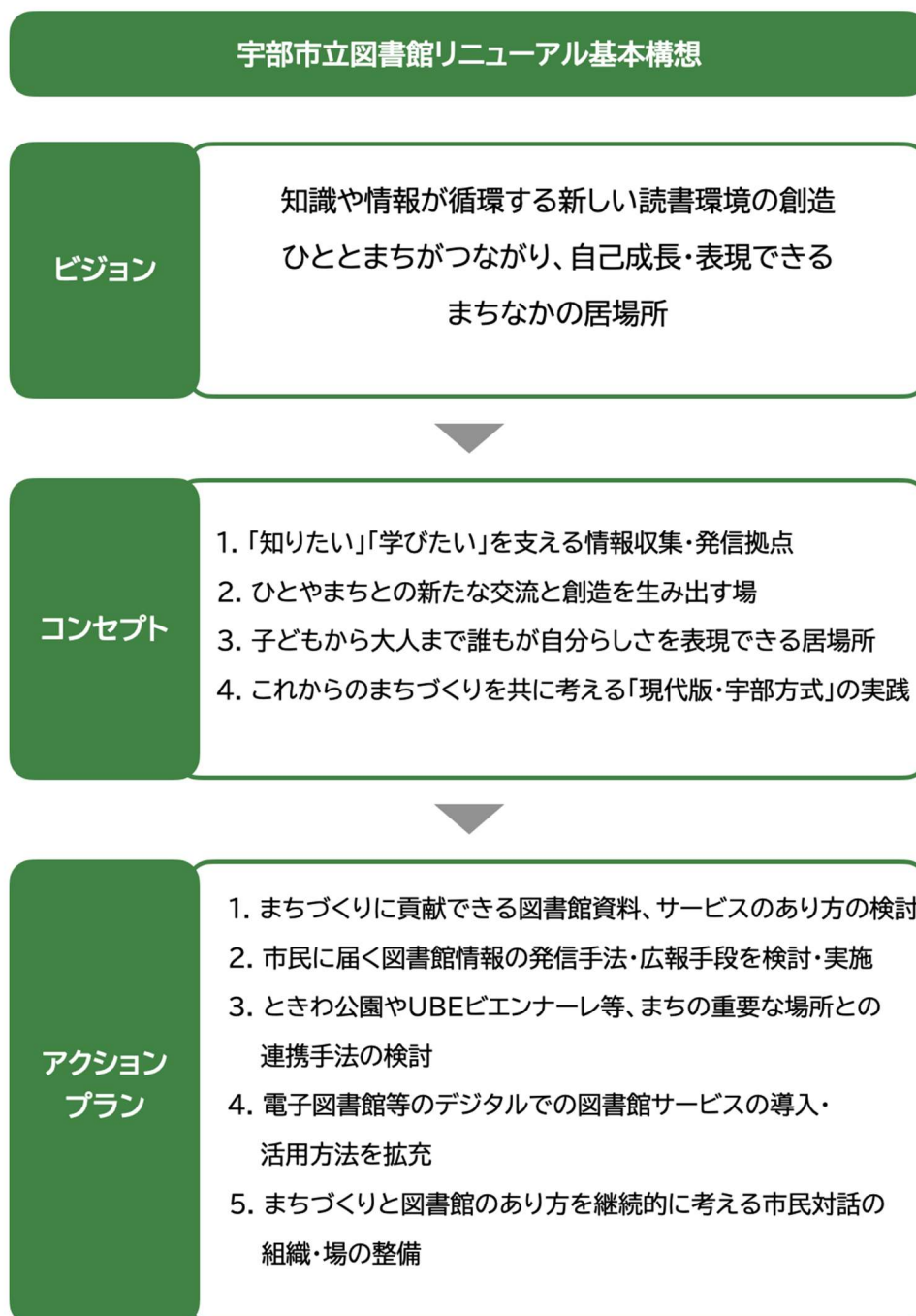
基本構想からより具体性を高めてまとめた基本計画は、今後の設計段階(基本設計・実施設計)への橋渡しとなります。基本構想で掲げたリニューアルのビジョン「知識や情報が循環する新しい読書環境の創造－ひととまちがつながり自己成長・表現できる、まちなかの居場所－」をハードとソフトの両面で実現するために、必要な事項を示します。



2 基本構想の概要

基本構想のビジョン・コンセプト・アクションプランは以下のとおりです。

基本計画の策定にあたっては、リニューアルビジョンの達成のため、コンセプトとアクションプランに基づき、市民等と対話を重ね検討・検証を行いました。



3 策定の過程

(1) 宇部市立図書館リニューアル市民委員会

市民の意見を取り入れた共創のプロセスによる計画策定にあたり、基本構想時と同様に宇部市立図書館リニューアル市民委員会(以下、市民委員会)を設置しました。公募による市民委員と3回の委員会を開催し、リニューアルに向けた具体的な課題や提案について協議しました。

【市民委員会での主な意見】

	主な意見
ハード(施設・整備)に関する意見	全体的に暗いイメージがあるので、明るく開放的な空間がほしい
	学習席を拡充させ、施設全体に分散配置するとよい 学習だけが目的の人にも本に触れられるような工夫が必要
	参考調査・郷土資料室や展示室は入りづらい雰囲気があるので、もっと市民の目に触れやすくなる工夫が必要
	閉架書庫の保存環境を見直す
	Wi-Fiが弱くて使えない 図書館の検索システムがわかりづらい・使いづらい
	トイレが古く和式が多い、洋式であれば使いやすい

	主な意見
ソフト(機能・サービス)に関する意見	いま図書館に来ていない多くの市民に向けたサービス・環境づくりが必要
	図書館だけが頑張るのではなく、市民が持っている得意やネットワークを活用したイベントや企画づくりを一緒に行いたい
	知りたい・学びたいと思ったときに、いつでも親身になって寄り添ってほしい
	学校図書館を支えて、子どもたちの学びを学校と公共図書館の両面から支援できるといい
	まちかどブックコーナーや移動図書館車のような図書館外で展開するサービスは、もっと広く多くの市民に活用されるような連携・工夫が必要

【市民委員会の実施概要】

第 1 回	開催日	令和4年(2022 年)9 月 10 日(土)
	時間	10:00～12:00
	会場	市立図書館講座室 オンライン
	参加人数	17 名 (内訳)会場参加 15 名、オンライン参加 2 名
第 2 回	開催日	令和4年(2022 年)10 月 22 日(土)
	時間	9:30～12:00
	会場	市立図書館講座室 オンライン
	参加人数	21 名 (内訳)会場参加 20 名、オンライン参加 1 名
第 3 回	開催日	令和4年(2022 年)11 月 12 日(土)
	時間	9:30～12:00
	会場	市立図書館講座室 オンライン
	参加人数	19 名 (内訳)会場参加 17 名、オンライン参加 2 名

【市民委員会の様子】



(2) 高等教育機関の図書館視察および意見交換

リニューアルのビジョンである知識や情報が循環するまち・環境づくりに向けて、本市と連携協定を締結している市内の高等教育機関(宇部工業高等専門学校、山口大学工学部・医学部、宇部フロンティア大学)の学校図書館・大学図書館を視察し、学生や担当者との意見交換会を実施しました。その目的は、意見交換によって得た学生等の知見をリニューアル方針に反映させることと、市立図書館として本市を拠点とする学校・大学図書館との情報共有や関係性構築に向けた協力・支援体制の強化を図るためです。

【視察・意見交換の概要】

日時	場所	意見交換概要
令和4年(2022年) 11月11日(金) 15:30~17:30	宇部工業高等 専門学校 学校図書館	学生との意見交換 学生協働の取組について 市立図書館の利用・連携について リニューアルに向けた希望・展望
令和4年(2022年) 11月22日(火) 14:00~16:00	宇部フロンティア大学 大学図書館	学生との意見交換 学生協働の取組について 市立図書館の利用・連携について リニューアルに向けた希望・展望
令和4年(2022年) 11月22日(火) 16:30~18:00	山口大学 工学部図書館	リニューアル工事について 集密書庫の導入について リニューアル後の利用・管理運営 市立図書館の利用・連携について カフェの利用・管理運営について
令和4年(2022年) 11月24日(木) 9:00~10:30	山口大学 医学部図書館	リニューアル工事について 集密書庫の導入について リニューアル後の利用・管理運営 市立図書館の利用・連携について 相互利用に関する協定について

宇部工業高等専門学校と宇部フロンティア大学では、図書館の学生ボランティアや学生協働の取組に参加している学生との意見交換を実施しました。コロナ禍によって学生生活においても大きな変化があるなかで、学校・大学図書館と市立図書館がどのように連携すればよいかについて議論しました。

また、山口大学の両学部図書館は昨年リニューアルを終えたばかりであり、リニューアルに向けた検討プロセスや実際のリニューアル後の利用状況等について、本市においても参考となる貴重な意見を交わしました。また、平成 22 年(2010 年)に山口大学図書館と市立図書館は相互利用に関する協定を締結しているため、サービスの現状把握や今後の連携強化に向けた検討を行いました。

【高等教育機関の図書館視察・意見交換での主な意見】

項目	主な意見
アクセス	寮生や宇部市外在住の生徒は図書館に行ける手段が少ない 電子図書館サービスの導入を知らなかった、利用してみたい
館内での過ごし方	せっかく行くからには長く滞在したい 昼食が食べられるスペースがあるといい 近くに食べ物を買いに行ける場所がないので、図書館で簡単な食べ物が購入できるといい Wi-Fi が弱くて使えない 電源が使える場所を増やしてほしい
学習スペース	学習スペースが少ない いまの 2 階の会議室(学習室)は入りづらいので、もっと気軽に勉強できる場所が増えてほしい 手元を照らす照明が欲しい 一人で勉強できたり、複数人で勉強できたりする机や椅子があるといい 勉強の息抜きにリラックスできるような場所があるといい
市立図書館との連携	市立図書館の本が学校から検索できたり、借りたりできるといい 移動図書館車を使えるといい 市立図書館のことを知らない学生が多いので、図書館からの情報が学校側にもきちんと届くといい 掲示板をつくってお互いの図書館情報を持ち寄ってはどうか

【高等教育機関の図書館視察の様子】

(宇部工業高等専門学校図書館)



(宇部フロンティア大学図書館)



(山口大学工学部図書館)



(山口大学医学部図書館)



(3) 移動図書館車等によるイベント派遣の実証実験

市立図書館の広域サービスとして移動図書館車が果たすべき役割は非常に重要です。市内各所の巡回スポットや学級文庫等のサービスといった既存活動で固定の利用者への継続的な支援は実施していますが、一方でより広く多様な市民へ図書館サービスを届ける観点では課題があります。

そこで、市民が多く集まる場所やイベントに移動図書館車を派遣し、いままで市立図書館を利用したことがない市民と図書館サービスをつなぐ新たな役割として移動図書館車を活用する実証実験を企画・実施しました。本を届けることだけを目的とせず、図書館サービスそのものを市全域に広く届ける窓口として、移動図書館車の発展的な利活用のあり方を検証しました。

【実証実験の概要】

日時	イベント・会場	実施概要
令和4年(2022年) 10月1日(土) 10:00~16:00	うべの里アート フェスタ(小野) アクトビレッジおの	イベント会場内に図書館専用スペースを確保 約200冊の寄贈本(絵本・一般書)をブックトラック等で展示
令和4年(2022年) 11月23日(水・祝) 10:00~16:00	うべの里アート フェスタ(万倉) 楠こもれびの郷	イベント会場に移動図書館車派遣 移動図書館車や市立図書館に関する利用案内 利用者カードの新規作成 蔵書の貸出対応

【実証実験の様子】



当日の利用動態としては、長時間に渡って開催されるイベントにおいて参加者が休憩をとったり、待ち時間を消化したりする場所として移動図書館等のサービスを利用する姿が見られました。特に子ども連れで訪れている参加者の利用が多く、子どもたちと一緒に腰を下ろして絵本を楽しみながら休憩をとっていました。

移動図書館車は存在自体が参加者の関心をひき、「移動図書館車を初めて見た」という声も多く聞かれました。移動図書館車自体が持つ魅力や特徴は、図書館に関心が薄い市民にとっても広く伝わり、図書館サービスへつながるきっかけづくりとして非常に効果的に作用しました。

イベントには宇部市以外の隣接自治体の方も多く参加されており、移動図書館車を有していない自治体もあるため強く関心を寄せていました。一方で、隣接自治体の住民であっても宇部市立図書館の利用ができることを知らない様子が見られたため、図書館利用に関する幅広い周知が課題となっています。

(4)機能・設備の現況調査

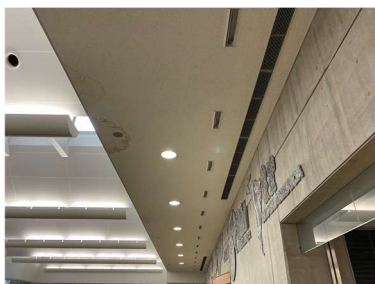
令和4年(2022年)8月10日および9月10日に営繕課職員立ち会いのもと、図書館機能・設備の現況調査を実施しました。

【現況調査結果の主な概要】

項目	状況
空調設備	老朽化のため冷暖房の効きが悪い 館内の場所によって暑すぎたり寒すぎたりする
照明設備	蛍光灯を利用しているため交換頻度が高い 天井が高い部分等の更新・メンテナンスが困難
トイレ(1階・2階)	和式トイレが多いため、特に子どもや高齢者が利用しづらい 利用導線が入り組んでいるため、利用時に混乱する
館内設備	一部の椅子・机等の什器の破損・汚損や床・カーペット材の経年劣化がみられる
エレベーター	閉架書庫用エレベーターに不具合がみられる

【現況調査の様子】

(空調設備)



(照明設備)



(館内設備)



(トイレ)



(エレベーター)



第2章 リニューアルのサービス方針

第1章における基本構想とこのたびの検討内容を踏まえ、リニューアルに向けた具体的なサービス方針を整理します。

1 「知りたい」「学びたい」を支える情報収集・発信拠点

紙の本を読む従来の読書の価値を尊重しながら、インターネットを活用した様々な媒体(メディア)も活用し、多様な知識や情報を収集・発信する「新しい読書環境」の拠点を実現します。

1. 「知りたい」「学びたい」を支える情報収集・発信拠点

- (1) 市民生活を支える図書館資料の拡充・周知
- (2) 多様な学びのあり方を支える学習スペースの拡充
- (3) 資料と人とまちをつなぐレファレンスサービスの拡充

(1) 市民生活を支える図書館資料の拡充・周知

市民の調査研究、文化教養、生活実務、趣味・レクリエーション等に資するあらゆる分野の資料を引き続き幅広く収集します。そのうえで、リニューアルに向けては、市民の暮らしや仕事・学業を支えるための資料をより一層充実させます。現在実施している医療(がん情報コーナー)資料やビジネス支援資料、10代の子どもたちを対象とするティーンズ資料といった、市民生活と密接なテーマに関連する資料の充実や、子育て支援等の市民ニーズが高いテーマの書架づくりも実施し、市民が求める資料が探しやすく、手に取りやすい棚づくりを行います。

移動図書館車は定期巡回スポットに加え、普段図書館を利用することが難しい社会人や子どもたちが利用できるよう、多くの市民が集まる場所やイベント等への派遣を行うなど、移動図書館車を通じた図書館サービスの利用と周知を推進します。なお、移動図書館車については、市立図書館全体のサービス方針の見直しを踏まえながら運行方針等を精査したうえで、更新等を検討します。

また、利用者サービス及び業務の効率化を図るため、図書館資料やサービスを市民とつなぐための図書館システムは、市民目線で直感的に利用しやすく、わかりやすいシステムのあり方を検証し、現代の市民生活にあわせた社会のICT化・情報化に対応しながら、さらなる利便性の向上を図ります。

また、令和 2 年(2020 年)度に導入した宇部市電子図書館の利用拡大を促進するため、館内外での周知活動に積極的に取り組みます。

(2) 多様な学びのあり方を支える学習スペースの拡充

あらゆる世代の市民の学習や研究を支えるため、学習スペースを拡充します。

一人で集中して勉強・研究ができる個別デスクのほか、複数人で会話を交えながら協働学習ができるグループデスク等、多様な学習・研究スタイルに応じた豊かな学習環境を提供します。

また、GIGA スクール構想に対応し、PC やタブレット端末、スマートフォン等のデジタル機器を用いるハイブリッド学習を実施できるよう、電源や Wi-Fi アクセスポイントの増設など、これからの新しい学習活動を支えるための環境を整備することで、より多くの市民の目的に応じた学習を支援します。

(3) 資料と人とまちをつなぐレファレンスサービスの拡充

市民の「知りたい」「学びたい」に寄り添うレファレンスサービスの周知を徹底するとともに、メール等によるオンラインレファレンスの実施やレファレンス協同データベースへの参画等を検討し、レファレンスサービスの拡充を図ります。

また、子どもたちと本との出会いの場づくりと、絵本や児童の本に関する相談を支援するサービスとして、児童用のレファレンスカウンターを設置します。

さらに、市民が知りたい情報の情報源となる組織や団体、人物とつながるレファラルサービスについても、実施に向けた検討を進めます。

※レファレンスサービス

図書館利用者の依頼に応じて、図書館職員が必要な情報そのもの、またはそのために必要な資料を検索し提供するサービスのこと。

※レファラルサービス

図書館利用者の依頼に応じて、図書館職員が必要な情報をもっている人あるいは機関や組織をつなぐサービスのこと。

2 ひとやまちとの新たな交流と創造を生み出す場

ひととまちとの情報を集約・発信することによって、市外からの転入者も含めた多様な市民同士が学び合い、新たな取組や挑戦が創造され、まちとともに成長する拠点を目指します。

2. ひとやまちとの新たな交流と創造を生み出す場

- (1) 文化・社会教育施設と連携した地域情報の発信の拡充
- (2) 基幹産業を支える高専・大学・企業等と連携した地域ビジネス支援の充実

(1) 文化・社会教育施設と連携した地域情報の発信の拡充

現在展示している本市の様々な文化・社会教育施設等に関する広報・パンフレット等の情報提供に加えて、図書館の所蔵資料と組み合わせた複合的な地域情報の発信を行います。また、市内の各施設に設置している「まちかどブックコーナー」の運営者と連携して、寄贈図書の利活用や地域情報の発信・交流拠点機能としてのあり方を検討します。

(2) 基幹産業を支える高専・大学・企業等と連携した地域ビジネス支援の充実

本市の基幹産業を支える高等教育機関・企業等との連携を図り、地域性を反映したビジネス支援を実施します。図書館における資料や展示等を通じて、様々な職業に従事している現役世代と、将来に向けて勉強や研究活動をしている若い世代との、資料や情報を通じた交流を生み出します。

3 子どもから大人まで誰もが自分らしさを表現できる居場所

多世代の交流を通じて、誰にとっても自分のもう一つの居場所として感じられる居心地のよい空間を作り出します。子どもから大人までが学びを通してつながり、相互に教え合い・学び合う空間とプログラムを実装します。

3. 子どもから大人まで誰もが自分らしさを表現できる居場所

- (1) 飲食可能な交流スペース・レストスペースの設置
- (2) ふるさとへの愛着と誇りを持てる郷土資料の充実・利活用
- (3) 美術・彫刻を核とするアート・芸術資料の充実・利活用

(1) 飲食可能な交流スペース・レストスペースの設置

飲食や会話が可能な交流スペース・レストスペースを設置します。読書や学習の間に休憩をすることができ、リラックスしながら、長時間滞在できる居心地のよい環境として整備します。

(2) ふるさとへの愛着と誇りを持てる郷土資料の充実・利活用

郷土資料の充実を図り、広く多くの市民が本市の歴史や文化に親しむことでふるさとへの愛着と誇りを育みます。

また、郷土資料に親しんでもらえる資料の利活用や本市出身者等の資料についても収集・展示を行います。

(3) 美術・彫刻を核とするアート・芸術資料の充実・利活用

渡辺翁記念文庫を核とする美術に関する図書や視聴覚資料の利活用をはじめ、館内外に多数配置している貴重な彫刻作品に気軽に親しめる環境を整備します。

また、UBE ビエンナーレに関連した彫刻に関する資料の企画・展示を関係部署と連携して行います。市立図書館の特長であるアート・芸術資料を通じ、様々な手法の自己表現に触れる機会を提供することにより、自分自身と向き合う場をつくりま

4 これからのまちづくりを共に考える「現代版・宇部方式」の実践

学びを通したまちづくりを、立場を超えて平等に対話できる場として「現代版・宇部方式」の実践に取り組みます。「共存同栄・協同一致」の伝統にならい、まちが抱えるさまざまな課題に対して、自律的に向き合い、連帯する場と情報を提供します。

4. これからのまちづくりを共に考える「現代版・宇部方式」の実践

- (1) 図書館を支援する市民団体「宇部ライブラリーラボ」との連携
- (2) 市民とともに企画・実施・運営が行える場づくり・支援体制の整備
- (3) 次世代を担う人材を見守り寄り添う図書館ネットワークの強化

(1) 図書館を支援する市民団体「宇部ライブラリーラボ」との連携

UBE読書のまちづくりビジョンの策定時に、市民、関係団体、学校、企業等から幅広く意見を聞き、意見交換をするために結成された「UBE読書のまちづくりネットワーク会議」を母体とする市民団体「宇部ライブラリーラボ」と図書館活動について、対等な立場で対話し、市民との共創による図書館づくりを実践します。

(2) 市民とともに企画・実施・運営が行える場づくり・支援体制の整備

市民が図書館で実現したい企画や創作・展示活動を支援し、実施できる空間・環境を整備します。「おはなしのへや」をはじめ、展示室や講座室、エントランススペース等で市民による図書館活動が実施できるような場づくり・支援体制を構築します。

(3) 次世代を担う人材を見守り寄り添う図書館ネットワークの強化

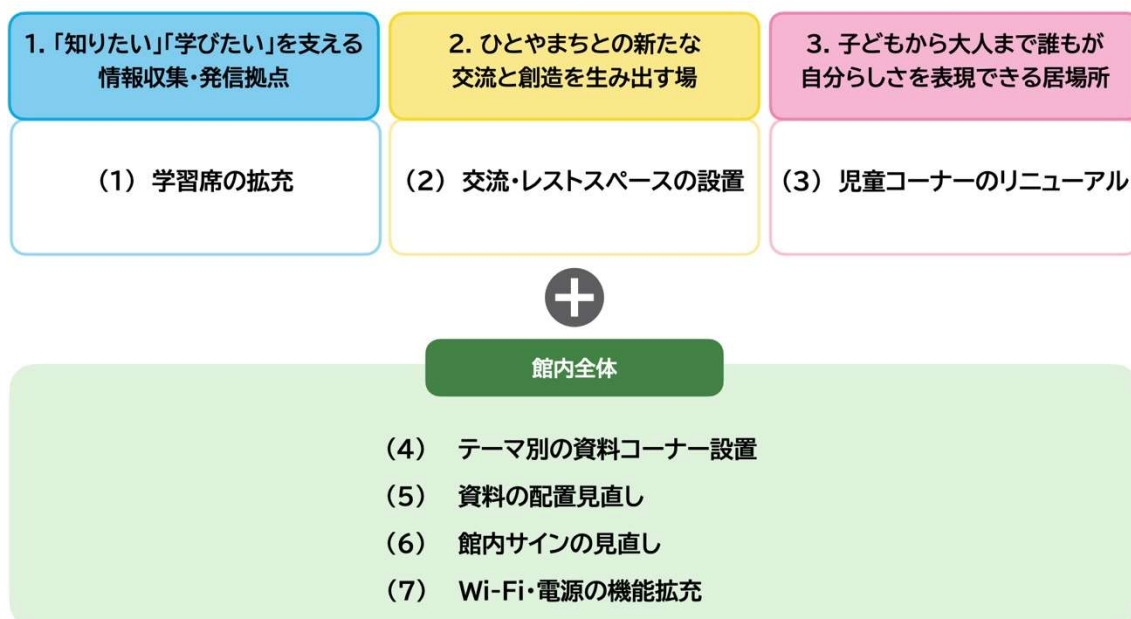
次世代を担う子どもや若者を見守り、学びや成長に寄り添う図書館ネットワークの連携強化に向けて、市内の幼保施設、小・中学校、高校・高専・大学等の高等教育機関における学校・大学図書館との連携を充実させます。これらの施設・機関との図書館ネットワークの強化によって、本や情報が広く行き届き、豊かな知的創造環境を生み出します。

第3章 リニューアルの事業方針

第1章における市民委員会等での検討内容や現況調査を受けた第2章のサービス方針を踏まえ、主なりニューアルの事業方針を整理します。

1 主なりニューアル項目

◆ サービス方針の実現に必要ななりニューアル項目



(1) 学習席の拡充

個別学習やグループでの共同学習といった多様な学習・研究を支える場として、従来の個別学習機能の拡充に加え、カウンターやテーブル席等の様々なスタイルの学習席を設置します。デスクライトや電源の提供等を行い、利用者がその時々ニーズに応じて場所を使い分けながら、快適に学習・研究できる環境を整備します。

【参考事例】



(守口市立図書館)



(松原市民松原図書館本の森)

(2) 交流・レストスペースの設置

長時間の滞在利用と市民間の交流を促進するため、飲食を伴う会話や交流が可能なスペースを設置します。新しい出会いや交流が生まれるきっかけづくりを目的とした、多様な活動が行える多目的スペースとしても機能します。

軽食等の購入ができる自動販売機の設置や民間の移動販売・キッチンカーサービス等との連携を図り、居心地よく過ごせる椅子・机等の什器を設置します。

【参考事例】



(伊丹市立図書館ことば蔵)



(西ノ島町コミュニティ図書館いかあ屋)

(3) 児童コーナーのリニューアル

「おはなしのへや」を改修し、現在と同様に子どもたちやその保護者が靴を脱いでリラックスして滞在できる場とします。また、子どもに関する本や読書の相談がしやすい体制を整備するため、児童コーナーにミニカウンターを設置します。図書館の利用について不明な点や探したい資料がある場合に、メインカウンターに移動することなく、児童コーナーの中で気軽に相談ができるようにします。

【参考事例】



(須賀川市民交流センターtette)



(市立小諸図書館)

(4) テーマ別資料コーナーの設置

市民生活を支える図書館資料の拡充・周知のため、既存のがん情報コーナーやヤングアダルトコーナー等の充実を図るとともに、新しい本や情報との出会いを生み出す棚づくりやコーナーづくりを実施します。

(5) 資料の配置見直し

多様な目的を持つ利用者の利用導線や利用実態にあわせて、現在の資料の配置を基本としながら、部分的に親和性の高い資料を近づけた配置の見直しを実施します。

(6) 館内サインの見直し

書架や本に関する様々な情報が溢れる図書館において、利用者が知りたい情報や場所をスムーズに伝達し案内するため、視認性が高く直感的にわかりやすい館内サインを設置します。また、デザインを統一し、施設全体として一貫性をもったサインとします。

(7) Wi-Fi・電源の機能拡充

パソコンやタブレット端末、スマートフォン等を利用した学習や研究を支援するため、Wi-Fi と電源の機能を拡充します。利用者が自身の端末と図書館資料を横断的に利用でき、深みのある学習・研究が実施できる環境を整備します。

◆ 改修・修繕が必要な主なリニューアル項目

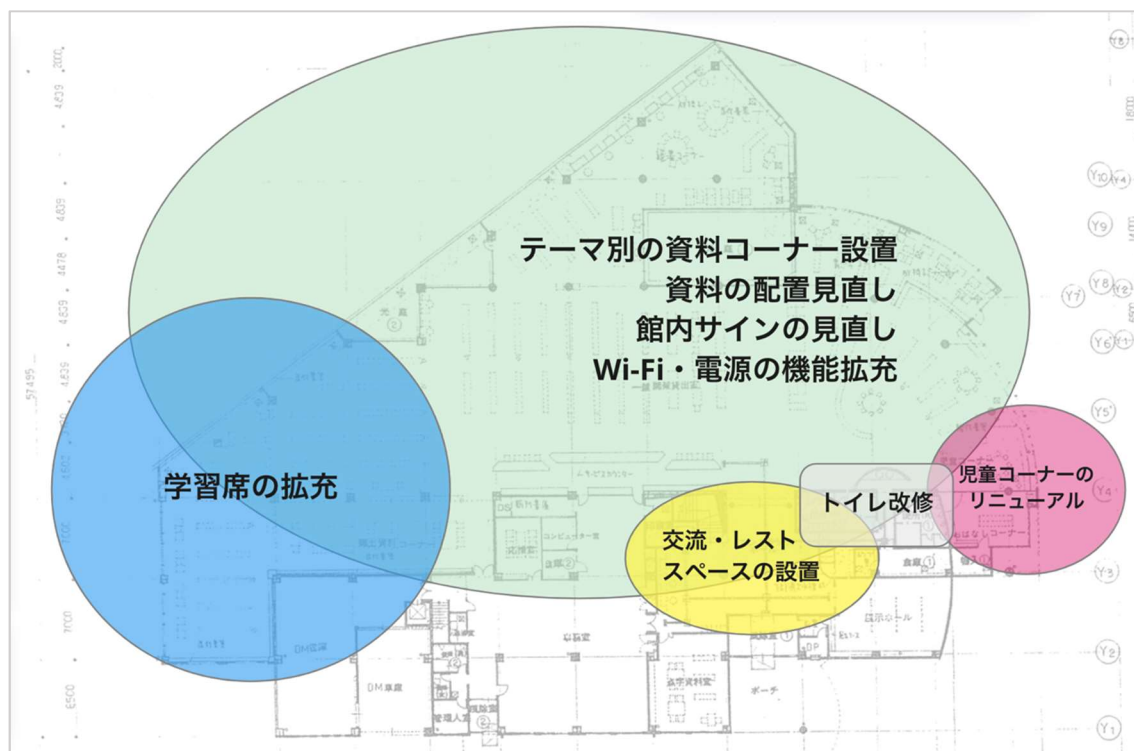
項目	目的	改修・修繕方針
空調設備	収蔵資料の適切な保管・管理 快適で居心地のよい環境づくり	機器更新
照明設備	読書や学習に適した照度の確保 明るく解放的な環境づくり	LED への取替
トイレ (1 階・2 階)	誰でも安心して使えるトイレ環境	洋式トイレ・多目的トイレの増設 導線の再構成(1 階)
館内設備	落ち着いて読書や学習に取り組める環境づくり	椅子・机等の什器の一部更新
エレベーター (閉架書庫)	利用者を待たせない迅速なサービス提供 安全に利用できる環境づくり	閉架書庫用エレベーターの更新

2 主なリニューアルの対象エリア

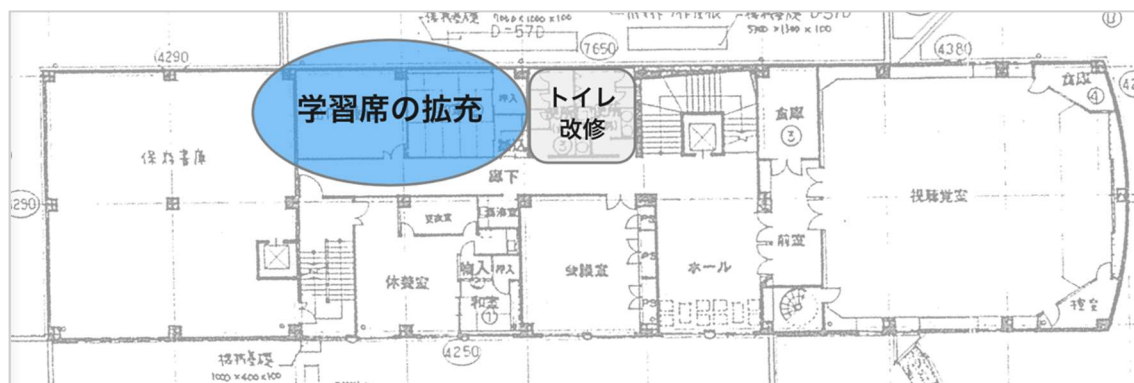
リニューアル項目のうち、主にリニューアル工事の対象となるエリアを示します。

なお、空調設備や照明設備等の施設の基礎インフラにかかる部分は記載を省略しています。

【1階】



【2階】

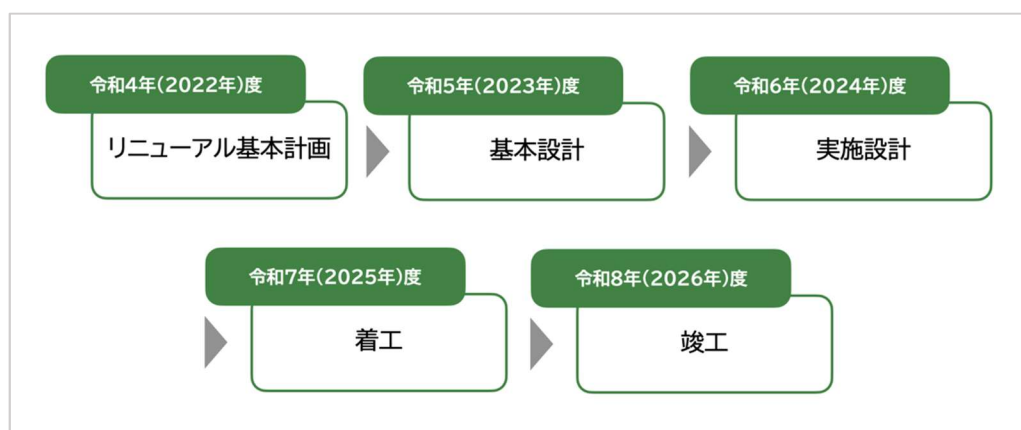


3 事業スケジュール(案)

基本計画策定後の事業スケジュールは以下のとおりです。

なお、中心市街地活性化基本計画を踏まえ、中心市街地エリア内で同時期に整備が進んでいく新市庁舎の第二期工事や「宇部市常盤通りにぎわい交流拠点施設」の状況も踏まえながら進めていきます。

また、リニューアル工事は、市民の図書館利用にできるだけ影響が生じないよう、工程等を工夫し効率的に実施します。



4 概算事業費(案)

概算総額
約 5 億円(設計費用は除く)

※事業費は、他市類似施設の事例等を参考にしながら設定した設計前の概算額であり、設計における詳細な調査や資材・労務費の価格変動、消費税増税等の社会情勢の変化などにより、今後変更になる可能性があります。

第4章 リニューアルの管理運営方針

1 開館日数・開館時間

市立図書館の開館日数および開館時間は、近隣自治体の中央図書館と比較すると、開館日数・開館時間ともに同程度または、やや高い水準となっています。

なお、近年のデータは、コロナ禍に伴う臨時休館等により、各図書館で開館日数に大きなばらつきが見られるため、比較に当たっては、コロナ禍以前の平成 29 年(2017 年)度のデータを参照しています。

リニューアルに向けては、現状の開館日数・開館時間を維持しながら、図書館を利用していない市民層への働きかけとして、イベント的に夜間の開館時間を延長する等の施策を講じながら、更なる市民のニーズを探っていきます。

図書館名	開館日数 (2017 年度)	開館時間
宇部市立図書館	291 日	火曜～金曜 午前9時～午後7時 土日祝 午前9時～午後6時

近隣自治体の 公共図書館名	開館日数 (2017 年度)	開館時間
山陽小野田市立 中央図書館	279 日	火曜～金曜 午前 9 時 30 分～午後 7 時 土日 午前 9 時 30 分～午後 5 時
美祢市立美祢図書館	287 日	火曜～金曜 午前9時 30 分～午後 6 時 土日 午前9時 30 分～午後 5 時
山口市立中央図書館	290 日	火曜～金曜 午前 10 時～午後 7 時 土日祝 午前 10 時～午後 5 時

2 人的資源の適正配置

令和元年(2019年)度における本市の人口 1 万人あたりの図書館職員数は、2.16 人で、県内市立図書館の平均値4.20人を下回っており、市民に広く利用を促進し、読書のまちづくりを推進していくためには、リニューアルに向けた十分な人員の確保が課題です。一方で、限られた人的資源の中でも効率的に図書館運営を進めるため、各種の登録業務や申請業務等の手続きについて、システム化・デジタル化を図ることで、既存業務の時短・省力化に努めます。

3 職員の育成方針

正規職員と会計年度任用職員が相互に密に連携し、市立図書館としての事業方針や運営方針を評価・検討していく体制づくりを推進します。また、リニューアルに向けては、関係各課・文化施設・社会教育施設・教育機関・関係団体等が横断的に連携する図書館ネットワークの構築が欠かせないことから、職員が関係者や関係団体と積極的につながる機会を提供します。

4 市民協働の取組

市立図書館を通じた「現代版・宇部方式」の実践に向けて、既存の図書館ボランティアやおはなしの会等の市民団体、また、新たに連携を強めていく宇部ライブラリーラボなど、図書館活動を核とする市民との協働を推進し、市民との共創による図書館づくりを目指します。さらに、定期的な情報共有の場を設定し、相互に情報や提案を持ち寄りながら、市民の様々なニーズに対応していきます。

資料編

1 宇部市立図書館リニューアル市民委員会(第1回)

(1) 実施概要

開催日	令和4年(2022年)9月10日(土)
時間	10:00~12:00
会場	宇部市立図書館講座室 オンライン
参加人数	17名 (内訳)会場参加15名、オンライン参加2名

(2) プログラム

1. 開会の挨拶
2. 宇部市立図書館リニューアル基本構想の説明
3. 自己紹介
4. 基本構想概要版を読んだ感想をシェアしよう
5. 休憩
6. 宇部市立図書館見学ツアー
7. 図書館見学ツアーをして気がついたことを整理しよう
8. グループの意見を共有しよう
9. 発表
10. 次回について

(3) 要旨

基本計画策定に向けた初回として、以下の3点を重視してプログラムを企画した。

1 点目は、初対面となる委員同士の緊張を緩和し、より活発な議論の場づくりをすること。2 点目は、議論の土台となる基本構想を全員で確認し共有すること。最後は、リニューアル対象である現在の図書館を、一緒に歩いて実際に見ることと設定した。

1 点目については、半数近い委員が、基本構想策定時の市民委員経験者であったことや、比較的図書館をよく使う利用者であることから、序盤からグループごとに積極的に意見が交わされる様子が見られた。

2 点目については、基本構想概要版を事前に郵送していたことに加え、当時の市民委員会におけるワークショップ成果物を会場に掲示する等の工夫を行い、限られた市民委員会で可能な限り既存の議論の流れに触れられる機会を創出した。

3 点目については、図書館職員の引率のもと、普段は入れない閉架書庫等を含め、館内をめぐった。図書館のリニューアルを利用と管理運営の両側面から議論するために、現在の状況を共有するとともに、図書館職員とのコミュニケーションを図ることができた。

(4) 委員の主な意見

1 階部分について	(一般コーナー) ▪ 全体的に暗さを感じる ▪ 開放感があって理想的な空間 ▪ 大型本の書架が低く取り出しづらい、低い机等があるとよいのでは ▪ 美術本・彫刻等をもっとわかりやすく周知してはどうか (閲覧席・学習席) ▪ 学習エリアは相当な拡大と分散配置が望ましい ▪ 学習が目的の人は本を見ていないかもしれない ▪ 自習机を増やす (児童コーナー) ▪ その他のコーナーに比べて機能が発揮されている ▪ 窓が大きく明るい雰囲気があって、とてもよい ▪ 書架の高さを低くするとよい
2 階部分について	(和室・会議室) ▪ 利活用が少ない部屋があり、市民がもっと利用しやすくなるとよい ▪ 靴を脱ぐことがしづらい人も多いため、和室を洋室にしたほうが利用しやすい ▪ 和室・会議室は必要ないのではないか、もっと学習室をつくってほしい
管理運営・設備	(管理運営) ▪ 各分野を専門的に扱える人材の拡充 ▪ 閉架書庫の保存環境を見直す ▪ 館内表示がわかりづらい、目につきづらい (設備) ▪ トイレがもっと使いやすくなるといい

2 宇部市立図書館リニューアル市民委員会(第 2 回)

(1) 実施概要

開催日	令和4年(2022 年)10 月 22 日(土)
時間	9:30~12:00
会場	宇部市立図書館講座室 オンライン
参加人数	21 名 (内訳)会場参加 20 名、オンライン参加 1 名

(2) プログラム

1. オリエンテーション(これまで／これからの検討の流れ)
2. 第 1 回市民委員会の振り返り・共有
3. テーマ別ディスカッション(前半)
4. 休憩
5. テーマ別ディスカッション(後半)
6. 発表
7. 次回について

(3) 要旨

基本計画策定に向けた 2 回目の市民委員会として、主に第 1 回目の市民委員会で挙げられた委員たちからの提案や質問に応える形式で企画した。特に、以下の 2 点については、対話的な形式として重要であるため、開始時間を 30 分繰り上げる等の対応を講じた。

1 点目は、多くの委員より懸念として示された、これまでの検討の進捗とこれからの検討の流れについて、可能な範囲で情報を公開し、リニューアルに向けて市民とともにつくる図書館の姿勢を提示すること。2 点目は、基本構想の検討の流れを踏まえて、まとまった協議の時間を確保し、腰を据えた熟議を行うことである。

1 点目については、一般的な公共図書館整備の過程を説明し、本市における検討状況を共有した。そのうえで、市民委員会として考えたいことや目標を明確にし、図書館と市民によって共に創る図書館リニューアルのあり方を改めて提示した。さらに、市民委員会後の市民対話の場として「宇部ライブラリーラボ」を紹介し、今後の活動の展望を共有した。

2 点目については、テーマ別ディスカッションとし、90 分間じっくり協議できるプログラムとし、委員がそれぞれの関心の高いテーマを選び、グループでディスカッションを行った。

テーマごとの深い掘り下げや課題の整理について、多様な視点から議論ができ、ハード面のリニューアルだけではなく、すぐに取り組みそうなソフト面のサービスの見直し等についても意見が交わされた。

(4) 委員の主な意見

<テーマ 1> 「知りたい」 「学びたい」を支える情報収集・発信拠点	課題「レファレンスサービスの認知度の向上」 ▪ そもそも図書館にレファレンスというサービスがあることを初めて知った、まだ知らない市民も大勢いる ▪ インターネットを使いこなす若い世代は、そもそも人に聞くことをせず、まず自分で調べる習慣がある ▪ 必ずしも図書館職員から声をかけてほしい利用者ばかりではない、むしろ自分で書架を見て探したい(ブラウジング)利用者もいる ▪ 館内のフリーWi-Fi の通信が弱すぎて、自分で調べ物をしたいときに使えない
<テーマ 2> ひとやまちとの新たな交流と創造を生み出す場	課題「交流と創造を生み出すアイデア・しかけづくり」 ▪ 本があるだけでは、新しい交流や創造は生まれない、なにかしらの工夫が必要 ▪ 窓が少なく、暗く静かに過ごすイメージがついている ▪ コロナ禍によって自由に使える施設が減り、自由度がなくなってしまった ▪ 市民が企画・提案できるイベント等の数が限定的
<テーマ 3> 子どもから大人まで誰もが自分らしさを表現できる居場所	課題「子どもたちのまなびと連続する読書環境」 ▪ 子どもたちは、図書館に学習機能だけを求めてしまっているようでもったいない ・ 子どもたちが本を読むきっかけをつくる必要がある ・ 図書館から遠い場所に住んでいる子どもたちは、図書館の存在さえ知らない ▪ 学習席は高校生以上の大人が利用していることが多く、小・中学生向けの勉強場所が少ない ・ 学習できる場所が圧倒的に足りない ・ 学校や学校図書館との連携を強める ▪ 図書館が児童館やその他の施設の役割を背負うべきなのか、図書館のあり方と子どもたちとの関係性を見つめ直す必要がある

3 宇部市立図書館リニューアル市民委員会(第3回)

(1) 実施概要

開催日	令和4年(2022 年)11 月 12 日(土)
時間	9:30~12:00
会場	宇部市立図書館講座室 オンライン
参加人数	19 名 (内訳)会場参加 17 名、オンライン参加 2 名

(2) プログラム

1. オリエンテーション(リニューアル基本計画の計画進捗の共有)
2. 第 2 回市民委員会の振り返り・共有
3. テーマ別ディスカッション(前半)
4. 休憩
5. テーマ別ディスカッション(後半)
6. 発表
7. おわりの挨拶

(3) 要旨

基本計画策定に向けた 3 回目の市民委員会として、第 2 回目の市民委員会より行っているテーマ別ディスカッションに重点を置いて実施した。委員が十分に議論をつくせるよう考慮し、また第 2 回目のディスカッションの様子も事前に共有したことで、一層深まった議論が繰り広げられた。

最終回である第 3 回目の市民委員会におけるポイントは、委員の多くが図書館と密接に関わり、主体的に行動を起こしていきたい思いを持っている様子がうかがえた点である。ディスカッション内での具体的な提案についても、「図書館を通じて司書や市民につながりたい」、「図書館を通じて自己表現や自己実現をしたい」、「図書館の活動と一緒に考えたい」という趣旨の発言が多く寄せられた。

図書館における市民協働・対話の場は「宇部ライブラリーラボ」の活動に接続していくことを、前回の市民委員会で説明したこともあり、リニューアルに向けた具体的な議論も行われた。より連携しあう市民協働の実現に向けて、ハード・ソフトともにリニューアルでどのように反映できると望ましいか意見が交わされた。

(4)委員の主な意見

<テーマ 1> 「知りたい」 「学びたい」を 支える情報収集・ 発信拠点	課題「図書館の情報発信力の改善」 ▪ 図書館でやっている活動が市民に届いていない ・ パンフレット等の図書館に来なければ手にとれない情報はあまり意味がない ・ 広報うべに毎月の児童サービスに関するイベント情報しかなく、大人の一般市民に対する図書館情報が載っていない ▪ 図書館だよりが市民の手に届いていない、目にしたことがない ▪ 図書館の公式ウェブサイトが見づらい、イベント情報も探しづらい ▪ 図書館に所蔵されている貴重な資料や宇部市に寄贈された資料はまちの宝物なのに、アピールされていない
<テーマ 2> ひとやまちとの 新たな交流と創造 を生み出す場	課題「閉鎖的で入りづらい空間との連携」 ▪ 展示室は、せっかく面白そうな企画をしても、入りづらい雰囲気がある、敷居が高い ▪ 2 階は、企画や催し事があっても、2 階にあがろうという気になりにくい ▪ 中庭は、気持ちがいい空間となっているのに、図書館サービスとつながっていない ▪ 参考資料室は、入りにくいし暗い、入口で座っている人がいると、静かにしないといけないように緊張する ▪ 館内全体は、交流や創造を生み出すためのゾーニングの工夫が重要
<テーマ 3> 子どもから 大人まで誰もが 自分らしさを 表現できる居場所	▪ 課題「現在の多くの宇部市民にとって図書館に来るきっかけがない」 ▪ いまの図書館に来ている宇部市民の大人は一定層の市民だけ ・ その他の多くの市民は図書館に来る習慣がない ・ 来たくても仕事の時間と、開館時間があわないため来られない ・ 大人だけでなく、子どもたちもとても忙しい(部活・クラブ、習い事、塾等) ・ 学校が終わってから図書館に来られるのは、図書館の近隣の子どもたちだけ

	・ 大人の都合があわないと、子どもも図書館に来ることができなくなる ・ 大人が子どもと一緒に来館しやすくなる工夫が必要 ▪ 民間の電子書籍サービスや書店は利用するが、図書館は利用しない ・ 本の貸出・返却が手間 ・ 棚がつまらない、いつ来ても同じ・変化がないように見える ▪ 書店の中を歩くワクワク感が図書館では感じられない
--	---